

秋の実に感謝して

山口農場で多古米の稲刈り体験 9月20日(日)



鎌を使って丁寧に



多古町観光まちづくり機構主催の稲刈り体験が、多古米農家の山口さんの田んぼで開催されました。多古町の魅力を広く発信するとともに、都市部の方々との交流を深めるイベントとなっており、当日は町内から3人、町外からは32人の方が参加しました。

お米の町である多古町ならではの稲刈り体験に最初は戸惑っていましたが、徐々に慣れていき、稲を素早く刈る様子も見られました。

今後も、このようなイベントを実施し、多古町の魅力をさらに発信していきます。



▲大人も子どもも楽しく稲刈り体験！▲



▲コンバインに乗って稲刈りに挑戦！

バスの日は多古町へ！

「千葉開府900年&多古線全通100年」記念文化祭 9月20日(日)

町コミュニティプラザで「千葉開府900年&多古線全通100年」記念文化祭が開催されました。

記念講演では、NPO法人 郷土ちばに学び親しむ会の加藤一幸さんが「鉄道連隊の歴史と県営鉄道」をテーマに講演しました。講演では、当時の写真や現在も千葉県内に残っている跡地の写真などを交えながら、鉄道連隊と県営鉄道の歴史が紹介されました。

会場には、かつて多古町を走っていた県営鉄道の「軽便鉄道」に関する資料のほか、国鉄・JRバスの秘蔵写真や貴重な資料も展示されました。また、JRバスオリジナルの缶バッジ作りや、多古鉄道のキーホルダー作り、千葉開府900年と多古線全通100年に関するクイズなど、子どもから大人まで楽しめる企画が数多く行われました。

多古線全通から100年という節目の年に、講演や展示、さまざまな体験企画を通して、かつて町を走っていた鉄道からバスへと受け継がれてきた、多古町の地域交通の歴史に触れる、充実した一日となりました。



▲JRバスオリジナル缶バッジ作りに挑戦！



▲クイズに挑戦して景品ゲット！



▲カラフルな多古鉄道のキーホルダー♪



▲多くの参加者が記念講演に耳を傾けました



▲軽便鉄道や国鉄・JRバス関連の貴重な資料▲

「また行きたい」と思える場に

多古町地域自立支援協議会 第1回当事者部会 9月16日(水)

町では今年度から、多古町地域自立支援協議会に「当事者部会」を設置しました。当事者部会は、障がいのある方やその家族、関係者が集まって、意見交換などができる場です。今回、多古町民体育館で開催された第1回目の部会には49人が参加しました。

並木友汰会長は、「地域の皆さんと触れ合う機会ができればいいと思っていました。今回、モルックやポッチャを通して皆さんと楽しく交流することができ、当事者部会の第一歩を踏み出すことができたと感じています。これからもこうした交流を続けていけたらと思います」と今後の活動への思いを語られました。

また、本部会の設置に携わった社会福祉法人 槇の実会の在田創一さんは、「障がい当事者の声をしっかり発信し、町の福祉につなげる場を作りたいと考え、当事者部会を立ち上げました。皆さんが『また行きたい』と思える場を作っていくことが大事で、とにかく楽しく、やりたいことをやっていこうというのが多古町の当事者部会の考え方です。障がい当事者、専門職、事業所、地域の垣根を越えて、『〇〇さん』と名前呼び合えるような関係を築いていけたらと思っています」と、本部会への思いを話してくれました。

当事者部会では、今後も活動を通して交流を深めながら、「また行きたいな」と思える場を目指していきます。



▲モルックとポッチャを楽しみながら交流しました！▶



▲開会のあいさつをする並木会長



▲モルックのトーナメント戦で優勝したチーム「ひまわり」の皆さん

地域自立支援協議会とは

障がいのある方などの地域生活を支援するため、行政や福祉、医療、教育などの地域の関係者が集まり、地域の課題を共有し、支援体制を作っていくための協議の場です。法律に基づいて市町村や圏域ごとに設置されています。協議会の中には、特定のテーマについてより詳しく話し合う「専門部会」が設けられており、それぞれの部会で出された意見や課題を協議会全体で共有し、地域の支援や取り組みにつなげていくことを目的としています。

次回は、ひとりの苦勞はみんなの苦勞
「ナイスクロー大会」が開催されるみたいよ！



音楽の世界へ誘われるひととき

大編成だからこそ生まれるハーモニー 9月6日(日)

町コミュニティプラザで「Sound Palette Concert」が開催されました。

今回は、多古高校吹奏楽部の顧問である焼田先生の「少人数で活動している多古高生に、大編成の吹奏楽を楽しんでほしい」という思いをきっかけに始動しました。この演奏会では多古校吹奏楽部と多古中ブラスバンド部、近隣一般バンドの皆さんを中心に構成されています。

大編成だからこそ生み出せる音の厚みや迫力は、まさに圧巻。観客はもちろん、演奏者もとても楽しそうに音を奏でており、会場は終始、魅力的な音色に包まれていました。



▲多古高生が司会！



▲一音一音記憶に刻まれるほど魅力的な演奏を披露